

文化財を保護する条例ができる前から、遺跡や遺物保存の大切さに気づき、
こつこつと活動を積み重ねてきた石狩市郷土研究会。彼らが見つめるまちの姿とは――

「市民として郷土愛を深め、 歴史資産の提供を通して まちの発展に寄与したい」



村山耀一会長(中央)と副会長の三島照子さん(右)、事務局長の石黒隆一さん(左)

高岡地区での土器発見がはじまり

石狩市郷土研究会が昨年、創立60年の「還暦」を迎えました。道内に数ある郷土研究会の中でも2番目に古い活動歴を誇る同会ですが、60年前といえば、世帯数1645戸、人口9358人の石狩町時代。その中でどんな方々が、どんなきっかけで会を立ち上げたのでしょうか？ 第5代会長の村山耀一さんに伺いました。

「1959年の秋、高岡地区で土器が発見されました。当時はまだ文化財の調査や保護への取り組みが不十分で、専門家に調査を依頼したそうです。そこで石狩の遺跡や遺物を保存することの大切さを強く感じた住民たちが、翌年この会を結成し、活動を始めたことが礎になっています」

創設期の会員数は75人。石狩・志美・花畔・南線・樽川・生振・石狩東・高岡に支部を持ち、まちの遺跡や史跡、開拓資料を調査したといえます。

やがて「石狩町誌」の編集も始まり、会員の中には基礎資料の調査や刊行作業に携わる人も出てきて、個々の活動は活発に。一方で会としての活動は下火になっていきました。そこには当時多く在籍していた農家の方が、農閑期以外の活動は難しかったという背景もあったそうです。

会として活動することを最優先に

結成から25年後、個々の活動に加え、「会としての活動も大切にしよう」と会員たちが新たに動き出します。それが石狩空襲の調査でした。

石狩空襲とは、1945年7月にアメリカ軍から受けた空襲のことで、聞き取りを中心に行われた被害の実態調査は、「石狩の空襲を語りつぐ」という1冊の本にまとめられています。

同じころ、市内の石碑の調査にも着手し、石狩編をはじめ、2015年までに厚田編、浜益編が刊行されたほか、「石狩川の渡船場に関する資料」「女性史資料」や「歴史写真」の収集などの調査に会として取り組んでいます。

また、個人の研究に対しても新たに発表の場が設けられました。それが会誌「いしかり暦」の発行です。「1980年から30年以上、毎年欠

かさず発行しています。道内では例が無いのでは？ 内容も全道で一番だと思っています」と村山会長も胸を張ります。

こうした長年の活動が認められ、2011年には同会が団体として、2013年には会の創立者の一人であり、顧問を務める田中實氏が北海道文化財保護功労者表彰を受けました。

さらに、創立60周年を記念して「石狩市小中高等学校校歌集」を刊行。学校の統廃合が多い石狩市で、新旧の校歌を収集し、「学校」という視点からまちの変遷を捉えた貴重な資料です。その出来栄えに村山会長も声を弾ませ、「同窓会などでこの歌集を使って母校の校歌を思い出して歌っていただければ」と期待します。

60年のあゆみ

石狩市郷土研究会

- 1960年 創立
- 1961年 遺跡、史跡、開拓資料の調査(～1979年)
- 1980年 会誌「いしかり暦」創刊号発行
- 1985年 会としての調査活動を開始
石狩空襲の調査(～87年)
石碑調査(～2015年)
- 1987年 「石狩の空襲を語りつぐ」刊行
「石狩の碑」第一輯～
第五輯刊行(～2015年)
- 1990年 「いしかり渡船場物語」刊行
(創立30周年記念事業)
- 2002年 「石狩町女性史年表」(1996年～)
「21世紀に伝える写真集」刊行
- 2011年 石狩市郷土研究会が北海道文化財保護功労者表彰を受ける
- 2013年 顧問(第3代会長)の田中實氏が北海道文化財保護功労者表彰を受ける
- 2020年 創立60周年記念式典・講演会を開催
「石狩市小中高等学校校歌集」刊行

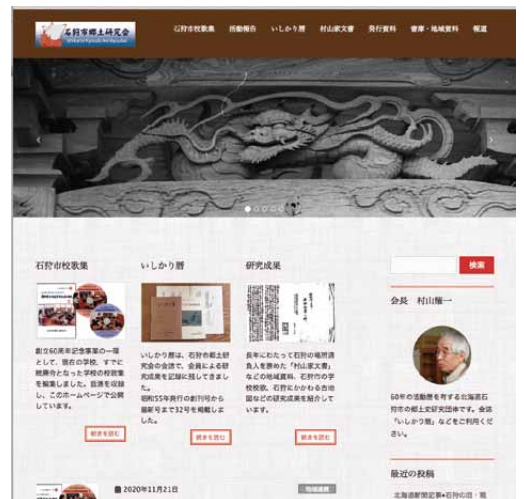
石狩市郷土研究会 村山会長
☎72-7489

▶毎月第3木曜の例会では、会員がリポートを持ち寄り、みんなで勉強。その成果の一部をまとめたものが年1回発行している「いしかり暦」です。33号まで発行が続く同誌には「村山家文書を読む会」「地図部会」などの部会活動における研究成果も掲載されています

▼いしかり市民カレッジの人気講座「石狩歴史散歩」で講師を務める村山会長。「私たちの日ごろの調査や研究の成果が、市民の皆さんの郷土愛を育むことに役立てばすてきですね」



▲昨年10月には、創立60周年を祝う記念式典と講演会を花川北コミセンで開催しました



▲事務局長の石黒さんが担当する同会HPでは、過去の「いしかり暦」や「村山家文書目録」がデータベース化され、誰でも検索して学べるようになっています



◀「石狩市小中高等学校校歌集」は校歌部会が中心となり4年半の歳月をかけ編んだもの。付属のCDには、在校生の協力を得て録音したものと、統廃合された学校の校歌は、元地域おこし協力隊員でオペラ歌手の今野博之さんが歌ったものを収めています。

中には譜面も音源も残っておらず、卒業生を訪ね、その記憶から譜面に起こして再現したというものも！ ※全て同会HPで聴くことができます

